



生野高校
77期 2年

学年通信 悉い有

第41号 (2023年10月20日)

大阪府立生野高等学校
大阪府松原市新堂1-552
072-332-0531(学校代表)
072-332-0712(学年直通)

【学年通信は保護者の方にも見せてください】

◆「みんな、勉強はこれくらいでやってる」

——と、このように書いて、みなさんはどんな印象を持ちますか？「周囲はみんな“これくらい”でやっているんだから、自分も同じくらいにやるでしょ！」の“これくらい”は、ポジティブ（だから頑張ろう！）ですか？ネガティブ（せいぜいこの程度でいいや…）ですか？集団の雰囲気はその人に与える影響は思っている以上に大きく、頑張れる・頑張れないも雰囲気はかなり左右されます（もちろんどんな雰囲気であろうとぶれない人もいます）。

自分が身を置いている集団の雰囲気がポジティブであれば、“これくらい”の平均値が高いため、集団の中で平均的な頑張りだったとしても、集団の外から見ればかなり頑張っている方だということがあります。そうであるにも関わらず、自分の周りの大半が同水準の頑張りをしているので、かなり頑張っているつもりでも意外としんどさを覚えないのです。一方で、これは逆も然り。自分が身を置いている集団が“あまり頑張らなくてもいいよね”といった雰囲気であったならば、“これくらい”の平均値が低いため、集団の中で平均的な頑張りだったとしても、集団の外から見れば随分と不足している、ということがしばしばあります。そして、自分の周りの人が同水準であるために、不足していることになかなか気付けません。さらに悪いことに、こうした集団の中では、ポジティブ集団における平均的な頑張りでさえしんどく感じます。何せ、周りの取り組み水準よりも自分だけが高めのことをやろうとするのですから。学年通信第27号(5/15発行)に、「生野の生徒は、周囲と同程度であることに安心感を覚える傾向が強くなる」「自分の感覚や身近に漂う感覚が、実態の全てではないことに、自覚的であらねばならない」と書きました。上昇志向であればそれに乗じて自分をうまく伸ばせられるのですが、停滞志向

のもとでは、本来伸ばせられる力も伸ばし切れない、ポテンシャル未満の到達に留まりかねません。10/15(日)の駿台ハイレベル模試のクラス別申込み率では、多めの3クラス平均が45%（最多クラスは54%！）、少なめの3クラス平均が27%（最少クラスは23%）でした。また、7月ベネッセ模試の解き直しでは、夏休み前までの提出率が多めの3クラス平均で97%（最多は100%！）、少なめの3クラス平均で61%（最少は42%）でした。上記のそれぞれ前者／後者のクラス間で、“これくらい”が示す水準が全く異なっているということがよく分かりますね。これらの積み重ねは、必ず後に影響します。

ポジティブ集団ならば、その雰囲気に自分を便乗させて、ともに頑張り、ともに伸ばしていきましょう。もちろん伸び悩むことはありますが、それでもその雰囲気に乗っていなかったならば、その水準にさえ届いていなかったことでしょう。では、停滞志向の集団ならばどうしようもないのか？そこにいることが損なのか？当然ながら、その雰囲気のままでは“損”の可能性が高い。伸ばせられる力も伸ばし切れないかもしれない訳ですから。それならば、雰囲気を変えればいい。別に「雰囲気を換えよう！」と教室で呼びかける必要はありません（もちろん呼びかけてくれることは大歓迎です）。まずは、自分が一歩抜け出しましょう。静かに一歩抜け出す、それで結構。身の周りの人の“別にやらなくてもいいよね”を、自分の判断基準にしないこと。判断基準を自分で持つこと。自分の中の“やらないことを正当化するもっともらしい理由”を数え上げるのではなく、“やってみようかな”を後押ししてあげる。きっと同じように実は思っていて、独りでは踏み出しにくいと感じている人が必ずいます。クラスで何人かが同時に一歩抜け出せば、その雰囲気は必ず変わります。どんな雰囲気の集団でも、飛び込ん

で先をめざしているファーストペンギンは既にいます。自分がセカンド、サードペンギンとして静かに飛び込むだけで、やがて集団全体が先をめざし始めます。“やらない理由”を確かめ合って、周囲と同程度の“やらない”に安心感を覚えるのではなく、「いってみる?」「じゃ、自分もいってみる!」と、みんなで先をめざしましょう。少し先の話になりますが、「受験は集団戦」とよく言います。本当にその通りです。人を伸ばすのは、個人の努力×集団の雰囲気です。そしてその集団の雰囲気とやらは、「自分の志向の人数分の総和」 $\sum_{k=1}^n$ (自分の志向) から成ります。

◆同じようなところ、書いてない?

10/27 の模試では、志望記入欄が3つあります。詳しくは10/26 配付予定の進路 NEWS を見てください。ところで、この志望欄をうまく使えていますか? ベネッセ7月模試で記入の様子を見ると、同じようなところを複数件記入し、うまく使えていない人がいるようです。志望判定は“このあたりを考えている”が妥当かどうか、また、現時点での自分の立ち位置を確認するためのものです。そのために、以下の2点に留意して記入しましょう。

① 難易度が異なる志望先を記入しよう。

ありがちなのが、同じ水準の大学を書くケース。例えば「大阪教育」「奈良教育」。並べて書いても判定はほぼ変わりません。文系・教育系の例として「筑波」「広島教育学部」「大阪教育」といった形なら、難易度別になり、そして自分がどの位置にいるのか目安が得られます。私立の「関大」「関学」も同様です。併記しても2年生では意味がありません。

加えて、同じ大学の別学部を書くケース。例えば「神戸の法」「神戸の文」「神戸の経済」。合格しやすい学部を探して志望する訳ではないし、経済でも経営でも法・文でもそれほど大きく難易度は変わらず(医学部など一部例外はありますが)、せっかくの記入欄を空費してしまいます。

② 第一志望は、ゆずらない。

大学受験では、3年に学力が伸びたから志望校をワンランク上げる——は、あり得ないと言

ってきました(学年通信第25号:4/19発行)。したがって、第一志望は志望候補の中で常に最も高難度に位置しているはず。「できたらA大学がいいけど…実際はB大学なところかな」ならば、第一志望はA大学です。Bをベースに勉強してAを受験することはあり得ません。そこで、志望欄には第1 → 第2 → 第3の順に、難度が高い方から順に記入していきます。判定が【厳しい → やや厳しい → 少しまし】で出るとしましょう。これで書き続け、頑張り続けていけば、やがて「少しまし」ラインが上がってきます。こうやって伸びを実感するのです。

他にも志望欄の書き方はありますが、細かいところは3年になってからで構いません。まずはこの2点を実践してください。

<10/27(金) 全統高2模試 時程>

8:20~9:00	SHR・受験届 記入
9:05~10:45	数学 (100分)
11:05~12:35	英語・リスニング (90分)
12:35~13:20	昼休み
13:20~14:40	国語 (80分)
14:40~15:35	自己採点・解き直し・HR

- ✓教室の私物を撤去すること。机の中・横のフックは使用不可。教室後方のフックは使用可です。
- ✓休み時間や昼休みが、他学年と2年生とで異なっています。他学年の試験や授業の妨げとならないよう、2年生フロア以外での私語は慎みましょう。

◆当面の予定

- 10/21(土) 大阪サイエンスデイ 1部
- 25(水) 5限 自治会役員選挙+主権者教育
- 26(木) A木1~4+A水5 (70分授業×5)
- 27(金) 河合塾・全統高2模試
- 11/6(月) 模試解き直し提出期限
- 11(土) 学校見学会②
- 13(月) 代休日